



梅林堂

塩豆大福だより



令和5年
2月号

「授かりもの」

早いものでもう2月を迎えます。令和5年も新年が明け、時が光芒の如く突き進んでいきます。仕事に追われ、時間に追われ、自分に与えられた時間をどう使っていけばいいのか悩むものですね。

私には「美味しいお菓子を創って お客様に喜んで頂く。」という使命があるといつも思っています。ですから日々お菓子の美味しさを追求していくための商品開発や品質管理の仕事が中心です。

梅林堂の代表銘菓になった「やわらか」は昨年700万枚以上お買い上げ頂きました。誠に有難いことです。それだけお客様に喜んで頂けたものと感謝するばかりです。思い起こすと令和元年頃から、もっと美味しい「やわらか」を創り上げようと試作に取り掛かりました。「糖や粉、油脂・バターそれぞれを生かしつつどうお菓子としての香りを出すのか？」とても難しいですがとても大切なお菓子創りの要諦です。夢中で試作に取り組んでいました。机の上には何十種類もの試作品の山。どれも良いけど、どれもまいち。納得できない試作品が並んでいました。

お菓子に対する思いを纏めることも大切です。お菓子に「思い」を込めていくのです。幾多の自問自答の中、ふと出てきたのが「お菓子は 袋に詰めた お母さんの心の温かさ」です。40年ほど前、若い時に読んだ経営指導家 岡田徹先生執筆の詩集にあった言葉です。「やわらか」は“生サブレ”ですが、私はおまんじゅうだと思っているのです。サブレの中にあるホワイトチョコレートは、重ね合わせたのではなく包まれているのです。思いが包まれているのです。やわらかの文字は書家の宇佐美志都先生、デザインはアーティストの中山晃子様から頂きました。多くの方の協力を頂きつつ、試作を重ねた商品の中から偶然に「これだ！」という味が生まれました。あれこれ出来ることは全て試してみる。納得できないのでまた試作を続ける。

理詰めで積み上げたのではなく色々やっていたら偶然に「出会った」のです。

それが「やわらか ゴールドプレーン」なのです。

ですから私はこの商品を神様からの「授かりもの」だと思っています。

「授かったもの」を更に磨きをかけて美味しく育てていく、そしてお客様に喜んで頂く、それが私の使命であります。今も机の上に岡田徹先生の詩集とやわらかの試作品がいっぱいです。

株式会社梅林堂 代表取締役 栗原良太



このおいしさ もっともっと知ってほしいから

毎月22日は 塩豆大福の日

塩豆大福 **2割引**
2個入・3個入・5個入

数量限定 うぐいす大福

塩豆大福の日限定販売 4個入 640円(税込)

2月22日 塩豆大福の日

国産青大豆使用

うぐいす大福

鶯たちが春を告げるため
鳴き声の稽古を始める2月。
梅林堂では、国内の限られた地域で栽培される
青大豆を使い「うぐいす大福」をお作りいたします。
本格的な春の訪れを待ちながら
青大豆のほのかな甘みをお楽しみください。

4個入 640円(税込)



“美味しい”は笑顔を作ります

